



新野中 学校だより2024年(令和6年)6月6日

新中PRIDE



(No.3)6月6日号

発行 学校長 岡田 崇司

中間テストよくがんばりました！



前期中間テストが終わりました。1年生にとっては初めての定期テストで、ドキドキしたのではないのでしょうか。あくまでテストは、「現在の自分の力を測るためのもの」です。結果に一喜一憂してしまうのも仕方ありませんが、5時間がんばった自分をまず褒めてあげてください。力が発揮できた人も、悔いが残った人も、とにかくお疲れ様でした。

さて、今月は南部Bブロックの総合体育大会が始まります。3年生にとっては県大会への出場をかけた最後の闘いになります。来週には「壮行会」もあります。私は、ユニフォームを着て決意を述べるみなさんを見るのがとても好きです。去年と同様、そこにいる、すべての先生方に励ましの言葉を頂こうと思っています。

夏の到来も間近ですが、体調管理をしながら、暑さを乗り切りましょう。

県中学校陸上競技記録会(5月25日)

標記の大会が鳴門・大塚スポーツパークで行われ、3年生1500m走1名、3年生100m走1名、2年生100m走1名が参加しました。記録的にも向上が見られたようです。



1500m走の様子 100m走には3名が参加し、記録を伸ばしました。

阿南光高校出前授業(5月28日)

電気の重要性和学が楽しさを伝えてくれるために、阿南光高校電気情報システム科の先生・生徒が出前授業を実施してくれました。本校生徒も本校職員も大喜びでした。



2年生人権かるた大会(5月30日)

かつて阿南の中学生がつくった「阿南市中学校人権かるた」を使って、2年生が、「学年かるた取り大会」を行いました。札に込められた意味を感じながら取り組みました。



生徒集会・リレー講話(5月31日)

本年度第2回となる「リレー講話」がありました。今回は3年生副担任の先生による楽しいお話でした。テーマは「頑張ったこと」。生徒たちは興味津々話を聞いていました。



委員会からの連絡

生徒会役員による進行

リレー講話始まりました



話にどんどん引き込まれました 最後は校歌斉唱 ピアノ伴奏は生徒です

校内研修・校内委員会(5月30日)

本校教職員も定期的に研修等行っています。この日は「学力向上検討委員会」と、道徳教育の授業づくりのための、中堅教員と若手教員によるメンター研修を行いました。



学力向上実行プラン作成の委員会を実施しました

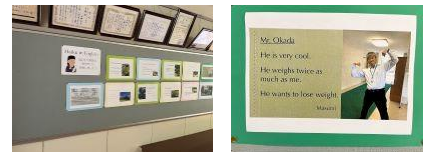
道徳の授業づくりを学びました

☆掲示物イロイロ☆



1年生国語科の授業では「野原の住人」になったつもりで詩を作りました。1年生らしい素直で、元気な作品が多いようです。

3年生国語科の授業では、論語から「座右の銘」を選び、自分の言葉で解説しています。私の好きな言葉を選んでいる人もいました。



3年生英語科の授業では「英語での俳句づくり」にチャレンジしています。写真と英文を上手にレイアウトし、素敵な作品に仕上がっています。私のことを俳句にしてくれている人もいました。どの人もユニークな作品ばかりです。

裏面もご覧ください♪

カラーで見たい方はホームページへどうぞ♪

研修の楽しさ

私には趣味がありません。30歳ぐらいの時、釣りにハマってしまったことがあるのですが、熱中しすぎて2年ほどで、まったく行かなくなってしまいました。それから、いろいろ始めたのですが続きません。現在は、休みの日は部活の試合や文化部の発表を見に行くのが数少ない楽しみです。



メンター研修の様子

~~~~~  
先週、校内研修と、校内委員会を実施しました。

校内研修は、「メンター研修」として、若手教員と中堅教員が道德の授業づくりについての研修をしました。メンターとなったのは今年本校に赴任してきた社会科の教員で、本校の「道德教育推進教師」をお願いしています。彼は地域教材を自作するほどの力があり、道德教育について県下でも指導者レベルの技量を持っています。残念ながら私は、この研修には参加できなかったのですが、この機会に彼からいろいろ学びたいなと思っています。

校内委員会は、「学力向上推進委員会」を行いました。この会では、本校生徒の学力に関する課題を把握し、具体的な取り組み方針を検討いたしました。メンバーは校長、教頭、学年主任、そして学力向上推進員の計6名。会議は思いのほか盛り上がり、実に楽しい時間となりました。それぞれ「新中のこどもたちに、力をつけてあげたい。」という共通の思いを持った教員たちが、自分の経験に照らし合わせて、意見を言い合ったのですが、1時間の予定がオーバーしてしまうほど、とても充実した時間になりました。

~~~~~  
文頭、「私には趣味がない」と書きましたが、今回の研修を行う中で、かつて趣味以上に夢中になって取り組んだことがあったことを思い出しました。それは「英語教育の研修」です。

25年ぐらい前、私は尊敬する先輩の英語教員に誘われ、英語教育の研修に参加するために、姫路市まで行ったことがありました。研修名は「英語教育達人セミナー」。全国から、英語授業の達人と呼ばれる方を講師として招聘し、1日その人たちの「技(わざ)」を学ぶというものでした。会場には50名を超える英語教員が集まり、会議室は満席となっていました。そこで、全国から集まった「英語授業の達人」と呼ばれる英語教員が講師となり、ひとり1時間程度で次々とそれぞれの授業をワークショップ形式で紹介していったのですが、その内容が凄かったのです。

次々出てくる講師の技術、英語力、指導理論、流れるような授業展開。「こんなすごい英語の教員がいるのか。私の授業は一体何だったのだ・・・。」私はショックを受けました。

午後の部が始まる前、司会者が「今日一番遠くから来ているのは青森県の〇〇先生です。」と紹介されました。「青森から？」と驚いていると、司会者が「〇〇先生せっかくだからなんかやって。」とその先生に声をかけました。その方は講師ではなく、いち参加者です。「そんな、急に？」と言った後、その先生は、英語をすらすらと話し始めたのです。そして即興で、英語でペア活動を参加者に体験させ、会場は大いに盛り上がりました。私は思いました。「今日ここにいる50人の中で、一番力量がないのは私だ・・・。」衝撃的な一日でした。

それ以来、私はこの研修に参加するため、県外に出向くようになりました。また私自身が事務局になり、「達人」を徳島に呼んで、セミナーを実施することもありました。私は英語の授業に自信がつき、授業をするのが本当に楽しくなりました。

家族に迷惑をかけながらも、県外まで出向き、夢中で授業づくりを学んだ頃。最後に参加した数年前には、講師をさせてもらうようになっていました。

生徒に良い授業を提供したいと思うことは、教員の良心だと思います。なんとか時間を確保し、生徒たちが生き生きと学習に取り組み、本校職員が、「教えることは楽しい」と思えるような研修を実施していけたらと思います。



学力向上推進委員会の様子